

# 富士ダイス

希少金属 含有減

持続的に製品供給

富士ダイスは汎用の超硬合金に比べてタングステンとコバルトの含有量を9割減らした新しい合金を開発した。産出地が偏在するこれら希少金属の使用を抑え、地政学リスクに影響されずに安定供給することを狙った。また硬さと欠けにくさを汎用超硬と同等程度にした上、重さをほぼ半分抑えた。回転工具に使えばモーターの負荷軽減による電力削減効果や、回転数の向上による生産性向上が期待できる。

富士ダイスは新合金を「サステロイ」として4月に発売する。事業継続性を想起させる名称にした。価格はこれか

## 回転工具向け新合金 モーター電力削減

ら決める。

「サステロイ ST60」は硬さ(HRA)が88・2(汎用超硬は88・0-90・0)とし、硬さ試験でのクラック長が34%短(同17-45%短)。重さが超硬の約2分の1である軽量性から、回転工具に向く。超硬製の大型金型は重さゆえに取り扱い(ハンドリング)が課題だ。

新合金はセラミクスと異なり導電性があるため、金型製造に多い放電加工ができる。磁性もあるため、磁力選別が可能だ。

超硬合金の主要成分であるタングステンは、採掘量のほとんどを中国が占める。また結合材のコバルトは、電気自動車(EV)のリチウムイオン電池向けの主原料として需要が増加しており、価格が高騰する懸念がある。